

成熟した人工林資源を最大限に活用し、 林業と木材産業の成長産業化を図る

関東森林管理局塩那森林管理署 森林技術指導官 山浦 洋治
矢板市林業・木材産業成長化推進協議会事務局 市川 貴大

矢板市の森林・林業の概況

表1 矢板市の森林面積の内訳

| | |
|-----------------------|----------|
| 総面積* | 17,046ha |
| 森林* | 9,776ha |
| 国有林* | 2,154ha |
| 民有林* | 7,622ha |
| 天然林 | 1,883ha |
| 人工林 | 5,739ha |
| 広葉樹 | 76ha |
| 針葉樹 | 5,662ha |
| 制限林（特別保護区、土砂流出防備保安林等） | 411ha |
| 非制限林（普通林、第3種特別保護地域等） | 5,252ha |
| 30度以上 | 265ha |
| 30度未満 | 4,987ha |
| その他 | 116ha |
| スギ | 3,079ha |
| 40年生未満 | 189ha |
| 40年生以上 | 2,890ha |
| ヒノキ | 1,791ha |
| 50年生未満 | 915ha |
| 50年生以上 | 876ha |

出典：矢板市森林整備計画書、森林簿

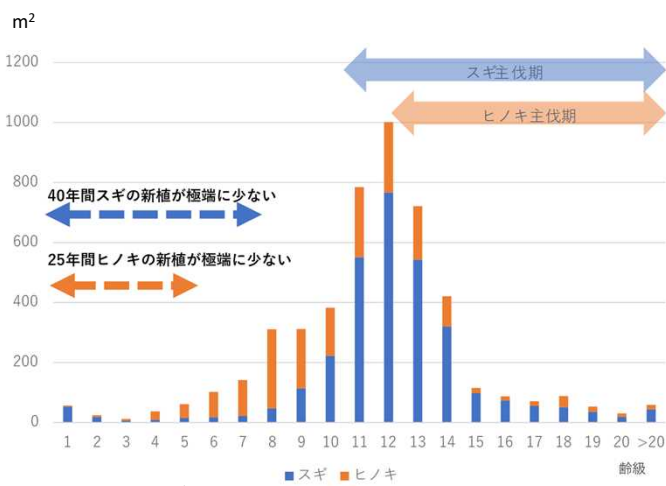


図1 スギ・ヒノキ人工林（非制限林・30度未満）の齢級別面積

（矢板市林業成長産業化推進アクションプランより抜粋）

矢板市林業・木材産業成長化推進協議会の取組

矢板市林業・木材産業成長化推進協議会 設立

2018年7月5日

構成員：矢板市、たかはら森林組合、高原林産企業組合、有限会社東泉林産（現、東林）、株式会社トーセン、有限会社マルハチ

アドバイザー：塩那森林管理署、栃木県矢板森林管理事務所

目的：構想に基づき官民共同で地域森林資源の循環利用による利益を地域に波及させ、地域経済発展に貢献することを目指した事業を展開する



運営会議



設立総会

林業成長産業化地域構想(矢板地域) 策定

2018年5月

目標：素材生産量 2万m³増産、製品生産量 1万m³増産
安定需給体制構築に伴う安定取引量 2万m³
新規雇用35名

矢板市林業成長産業化推進アクションプラン 策定

2021年3月

内容：①伐期を迎えている人工林について、主伐・再造林を積極的に取り組み、持続的な林業活動の基盤を築く
②伐採された丸太を製材工場が受け入れる体制について、川上、川中双方の安定した経営環境を実現する

集約化された皆伐再造林からの直送

2021年9月～

内容：集約化された皆伐再造林一貫施業による川上から川中への直送



サプライチェーン

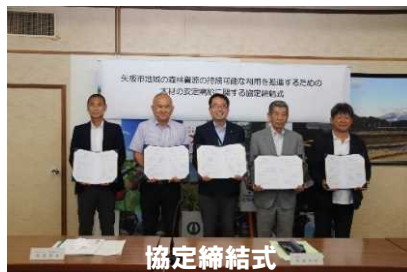
矢板地域の森林資源の持続可能な利用を推進するための木材の安定需給に関する協定

2021年9月1日

構成員：矢板市、たかはら森林組合、高原林産企業組合、有限会社東泉林産（現、東林）、株式会社トーセン、有限会社マルハチ

目的：①矢板地域の森林資源の主伐・再造林による持続可能な利用の促進を通じて林業の成長産業化を実現する

②矢板地域材の適切かつ安定的な供給と建築物等における木材利用の推進を通じた二酸化炭素の吸収・固定の強化と増大を図り、脱炭素社会の構築に貢献する



協定締結式

林業成長産業化に向けた低コスト育林技術の実証及び普及の推進に関する協定

2021年11月1日

協定者：塩那森林管理署、矢板市林業・木材産業成長化推進協議会
内容：国有林をフィールドとした低コスト育林技術の実証、現地検討会等による低コスト育林技術の普及



里見署長と齋藤市長



スギ大苗植栽現地検討会 (12/2)